



震災から何を学ぶか —3.11から見た日本社会—

【以学館 1 号ホール】

●テーマ

「大学生と震災ボランティア
—ハードとソフトからの検討—」

●報告

第一報告:「情報の発信者に身近さを感じていれば
大学生のボランティア意欲は向上する
—SIPS理論に基く、どうすれば大学生のボラン
ティア参加意欲が向上するかの考察及び施策案—」

報告者 : 小泉ゼミナール

第二報告:「Youth for 3.11について
—のべ1万人の学生を送り出した活動内容の総括—」

報告者 : 古城陽句 (人間福祉専攻 3 回生)
岡崎清訓 (人間福祉専攻 3 回生)

【以学館 2 号ホール】

●テーマ

「被災者と支援者
—その出会いと葛藤—」

●報告

第一報告:「大学生と復興支援活動」
報告者 : 栗田みなみ (人間福祉専攻 2 回生)

第二報告:「東日本大震災にみる
現地支援職のゆらぎと対峙
福祉及び教育現場従事者に限定して—」

報告者 : 奥村有沙
(社会学研究科博士前期課程 1 回生)

[日時]2012年 4 月26日(木) 14:40~16:10

[場所]以学館 1 号・2 号ホール

※同時開催

主催:産業社会学会



産業社会学会 東日本大震災連続フォーラム第二弾

震災から何を学ぶか

－3.11 から見えた日本社会－

2011年3月11日に発生した東日本大震災から1年が過ぎました。この震災は、東日本に甚大な被害をもたらしただけでなく、「日本社会」全体にとってもその根幹をなす構造に根本から見直しを迫る未曾有の大災害でした。

私たちは、この1年のあいだに、この震災にどうアプローチし、また、何を学びえたのでしょうか。それを考えるため、私たちはこの2月に震災後1年間、産業社会学部で行われた様々な震災に関する私たちの活動を一同に報告し、そこから見えてきたこれまでの、そしてこれからの社会の姿を共有するフォーラムを行いました。

今回、その第二弾を行い、さらに1年間に産社の学生・院生・教員が3.11に関連して行なってきた活動や研究、そしてその「気づき」を共有し、さらなる3.11以後の日本社会、および私たちのあり方について「産社らしい」かたちで考えあう機会としたいと思います。

●第3弾 最終フォーラム6月開催

4月26日（木）

以学館 1・2号ホール

14:40～16:10